

## 火せんの型式承認試験基準

試 験 方 法		判 定 基 準		備 考
1	外観検査	1	仕様書どおりであること。	
2	落下試験	2		
	1 コンクリート床上においた厚さ 30 mmの堅木板上 1.5mの高さから水平及び垂直に各 1 回自然落下し、異常の有無を調べる。	1	破損等異常がないこと。	
3	低温発射試験	3		プラスチック製に限り行う。
	1 試験品を温度 - 30 に保った恒温槽に 3 時間収納し、十分冷却した後取り出し、直ちに発射し異常の有無を調べる。	1	破損等異常のないこと。	
4	耐水試験	4		
	1 使用状態で軸を水平にして水面下 25mm の水中に 1 分間浸漬して取り出し、直ちに発射し異常の有無を調べる。	1	発射し得ること。	
5	発射試験	5		
	1 前項で発射した試験品の上昇高度、落下速度、光薬燃焼時間を測定し、発火色、上昇状態を観測する。	1	1 ) 上昇高度は 150m 以上であること。 2 ) 落下速度は 4.5m / s 以下であること。 3 ) 燃焼時間は 3 秒以上であること。 4 ) 発火色は赤色であること。	

				5) 上昇状態は安定していること。	
6	光薬燃焼試験	6	1	1) 光度：250cd 以上であること。 2) 燃焼時間：1) の光度が 3 秒以上あること。 3) 発火色：CIE 色度 $x > 0.61$ $y < 0.36$	
7	推力試験	7			参考資料
	1 推力試験機を使用して、ロケットの推力曲線を記録する。				
8	包装防水試験	8	1	浸水しないこと。	
	1 カプセル包装のまま軸を水平にして、水面下 30cm の水中に 15 分間浸漬し、浸水の有無を調べる。				

(注) 供給品の数は 10 個とし、光薬燃焼試験は 5 個について行い、同じその 5 個を低温発射試験(プラスチック製の場合のみ)に使用する。  
残りの 5 個を耐水試験、発射試験に使用する。